学校の教育目標：やさしく かしこく たくましく　経営方針：心の宝物に満ちた学校に

かさはら THE TEAM

令和 4 年度
笠原小学校
学校便り
6 月 20 日号

児童会：誰もが楽しい笠原小学校を創りあげていくために、思いやり・ルールを大切にしよう

心が変わる…運命が変わる

校長　鈴木　稔朗

早いもので6月も今日で終わりです。「水無月」は「水の月」。梅雨を表す言葉ですが、今年はその期間も非常に短く、文字通り「水の無い月」となりました。今週は連日の猛暑となり、児童の健康と安全を最優先に、運動や下校に頭を悩ませましたが、保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、全員健康を損なうことなく、7月を迎えることができそうです。

＊＊

心が変わると行動が変わる
行動が変わると習慣が変わる
習慣が変わると人格が変わる
人格が変わると人生が変わる
人生が変わると運命が変わる

左の言葉は私の座右の銘であり、教師としての信念です。自分自身が生き方に迷うとき、校長として学校経営の構想を策定するとき、大小様々な方針を提示したり判断を迫られたりするときに常に立ち返る言葉です。

先日の朝の会のことでした。1 年生の OE 君は、前席の子から渡されたプリントを受け取り、後へと回します。ところが、そのとき、後の子は席にいませんでした。彼はそれに気付くと、プリントを机の真ん中に、盤面の四辺と平行になるように、丁寧に置きました。時間にすれば数秒だったかも知れません。しかし私はここには、はっきりとした分かれ道と、どちらを選ぶかについての彼の思考と選択、そして今後の生き方につながる決意と行動があったと思っています。

プリントを受け取って後ろへ回す。児童にとっては一日で何十回もくり返される完全なるルーティンで、半ば無意気に行われていることでしょう。そんな何十分の一のこの機会は、たまたま「そこにその子がいない」という状況でした。彼が果たすべき責任は確実に配ること。ならば「机の上に置いて終わり」で十分です。しかし、彼は、瞬時に自らの心で深く考え、「今自分がなすべきこと」を上記のように思い定め、値打ちある、すなわち自分と仲間の笑顔と成長に結びつく行動を選び取りました。仕事を仕上げる上での丁寧さ、人に対する誠実さに感動しました。まだ 1 年生の彼がこの瞬間に見せてくれたきらめきが、彼にとって当たり前の「習慣」となり、それを積み重ねて生きていくことでいつか温かで厚い「人格」が形成され、周囲から慕われ、信頼される幸福な「人生」を送る礎を得て、今後の変化の激しい社会で自らの「運命」を切り拓いてほしいと強く願いました。その願いをそのまま「心の宝物で賞」に記してお伝えしました。

朝、自分で起きるのか、起こして貰うのか。家族に自分からおはようを言うのか、言われて返すのか、それでも返さないのか。落ちていると気付いたごみを拾うのか、拾わないのか。私たちの人生は選択の連続です。分かれ道で迷ったそのとき、どんな言葉や行動を選び取るのか。その繰り返しと積み重ねで、私たちは、知らず知らずのうちに、自分自身の行動様式や思考を獲得していきます。それが「人格」です。

間もなく夏休み。しかし、子どもたちの可能性を拓く歩みが途切れることはありません。日々の生活の中で、悩んだり迷ったりしながらも「よき選択」ができる。それを積み重ねて、豊かな人格の基礎を獲得できる。そんな学校であり続けられるよう、保護者・地域の皆様と思いを一つに歩み続けたいと心から願います。どうかよろしくお願いいたします。